

## タイトル：かき「富有」の台風被害（早期落葉）樹における果実品質安定技術

### [要約]

7月下旬に台風被害を受けた「富有」の補正摘果は、落葉率 30～50%で着果数の 25%、落葉率 60%以上で 50%程度行うことにより、果実品質が安定する。

また、剪定の程度は、落葉率が 50%までは剪定率 60%、落葉率が 60%以上では 80%と強めに行うことにより、翌年の果実品質が安定する。

香川県農業試験場府中分場・栽培担当

[連絡先] 0877-48-0731

[部会名] 果樹

[専門] 栽培

[対象] 果樹類

[分類] 指導

---

### [背景・ねらい]

かき「富有」の 7月下旬の台風被害樹における果実品質の安定を図るために、落葉程度別の補正摘果程度及び剪定強度について検討する。

### [成果の内容・特徴]

1. 早期落葉樹の補正摘果は、果実の肥大効果を促進する。しかし、落葉率の大きい樹体は、小さい樹体に比べて肥大が小さく、果実の軟化も早い。また、収穫が前進することから、糖度も低くなる（[表1](#)）。
2. 落葉率が 20%以下で補正摘果を行わない区を通常の果実生産と仮定した場合、7月下旬に台風被害を受けた「富有」の補正摘果は、落葉率が 30～50%で着果数の 25%、落葉率が 60%以上で 50%程度行う必要がある（[表1](#)）。
3. 落葉程度が大きくなるほど、翌年の着花数は少なくなるが、剪定強度による影響は認められない（[表2](#)）。
4. 落葉程度が同一の場合は、剪定を強くすると着果が早期に制限されるため、果実の肥大が促進されヘタスキ果が増加する。しかし、落葉率の大きい樹体は小さい樹体に比べて、その肥大効果が小さい（[表2](#)）。
5. 落葉率が 20%以下で剪定強度 60%の区を通常の管理による果実生産と仮定した場合、落葉率が 50%までは剪定強度 60%、落葉率が 60%以上では 80%と強めに行うことにより、同レベルの果実生産が図られる（[表2](#)）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 被害樹の樹勢や品種、被害後の気象条件等について考慮する必要がある。
2. 慣行の管理作業は徹底して行う。

表1 台風による早期落葉樹の補正摘果が果実品質に及ぼす影響(1997)

処理区		収量 (kg/樹)	一果重 (g)	糖度 (%)	収穫果率(%)		2L以上の割合 (%)
落葉程度	補正摘果程度				11/12	11/19	
	<b>無摘果</b>	<b>88.3</b>	<b>262.4 (100)</b>	<b>16.6</b>	<b>25.1</b>	<b>74.9</b>	<b>36.6</b>
I	25%摘果	79.1	271.6 (104)	16.5	23.0	77.0	55.4
	50%摘果	70.3	280.5 (107)	16.4	17.7	82.3	63.0
	<b>無摘果</b>	<b>81.2</b>	<b>254.0 (97)</b>	<b>16.2</b>	<b>25.1</b>	<b>74.9</b>	<b>33.2</b>
II	25%摘果	76.2	262.8 (100)	16.1	20.8	79.2	40.7
	50%摘果	63.4	283.3 (108)	16.2	45.9	54.1	55.3
	<b>無摘果</b>	<b>74.5</b>	<b>241.4 (92)</b>	<b>15.5</b>	<b>42.6</b>	<b>57.4</b>	<b>32.3</b>
III	25%摘果	67.9	250.7 (96)	15.7	55.8	44.2	36.6
	50%摘果	59.3	261.7 (100)	15.8	57.8	42.2	42.1

「富有」56年生1区1樹反復なし 補正摘果8月13日  
 落葉程度はI：落葉率20%以下，II：落葉率30～50%，III：落葉率60%以上  
 一果重の( )内は落葉程度I/無摘果の処理区を100とした指数

表2 台風による早期落葉樹の剪定強度が翌年の樹体，果実品質に及ぼす影響(1998)

処理区	平均新梢 長 (cm)	枝別平均着花数			一果重 (g)	糖度 (%)	ヘタスキ 率 (%)	2L以上の割合 (%)	
		短果枝	中果枝	長果枝					
I	40%	21.7	3.8	4.9	6.3	214.1 (88)	16.2	12.7	1.5
	<b>60%</b>	<b>24.1</b>	<b>3.6</b>	<b>5.2</b>	<b>6.1</b>	<b>242.8 (100)</b>	<b>16.0</b>	<b>14.8</b>	<b>25.0</b>
	80%	25.5	3.8	5.4	6.2	261.3 (108)	16.3	16.1	21.3
II	40%	23.4	3.7	5.1	6.3	195.6 (81)	17.3	11.3	8.2
	60%	25.0	2.8	4.2	5.0	231.7 (95)	16.2	18.1	16.3
	80%	27.8	2.4	4.3	5.1	278.9 (115)	17.0	24.9	20.1
III	40%	22.6	1.8	3.6	4.5	191.8 (79)	17.2	5.4	0
	60%	26.0	1.8	3.4	4.1	222.1 (92)	17.1	18.5	1.8
	80%	30.6	1.7	3.4	4.2	250.4 (103)	16.4	32.3	22.1

「富有」57年生1区1樹反復なし 剪定強度は剪定前後における総新梢長の割合  
 一果重の( )内は落葉程度I/剪定強度60%の処理区を100とした指数  
 ヘタスキは微(外観の判別不可，色むらも見られない)以上

[その他]

研究課題名：落葉果樹高品質果実生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成10年度(平成4年～12年)

研究担当者：片桐孝樹、丸尾勇治郎、村尾昭二

発表論文等：なし